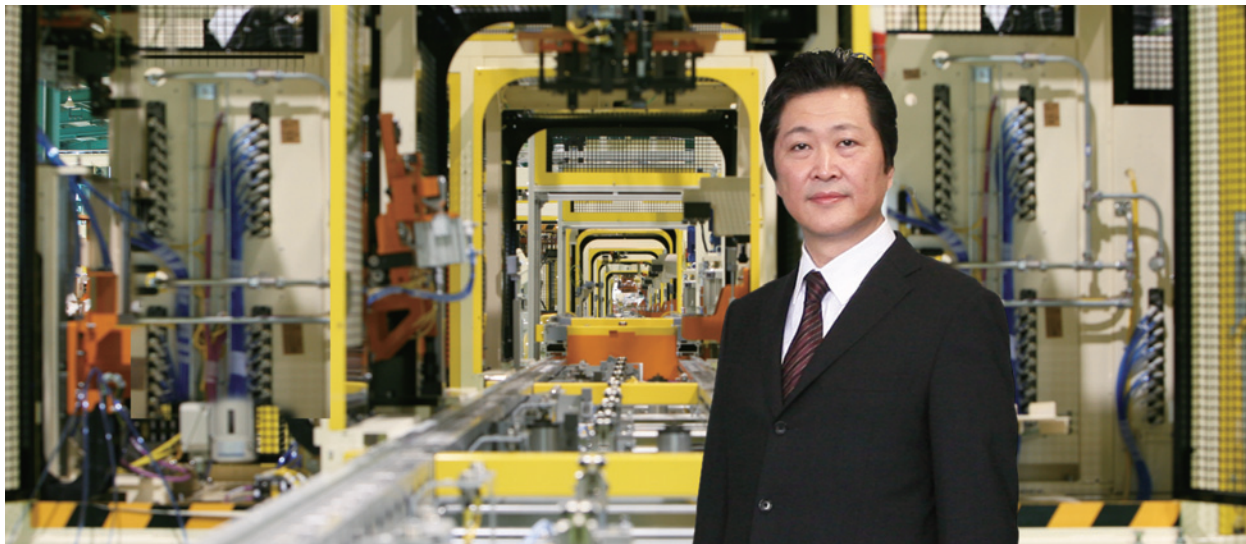




# 第62期第2四半期 HIRATA REPORT

平成24年4月1日～平成24年9月30日

平田機工株式会社



代表取締役社長 **平田雄一郎**

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。第62期第2四半期累計期間(平成24年4月1日～平成24年9月30日)の事業概況を以下のとおり、ご報告させていただきます。

当期間の世界経済は、欧州での金融、財政不安による債務問題が長期化する中で景気低迷が続いていることに加え、新興国経済の成長も減速傾向にあります。一方、国内経済におきましては、緩やかな回復基調が見られるものの世界経済の低迷、円高水準の高止まりなどにより、景気の先行きについて依然として不透明感が払拭できない状況が続いております。

このような経営環境のもと、当社グループにおきまし

ては、お客さまの設備投資に対する姿勢が慎重化する中で、予定しておりました案件の受注が遅れるなど、当第2四半期における生産および売上ともに低調となり厳しい状況で推移し、当期間の連結売上高は164億96百万円(前年同期比36.7%減)となり、前年同期を下回る結果となりました。

利益面では、売上高の減少に加え、売上原価率の増加などにより、営業損失は4億44百万円(前年同期は9億93百万円の営業利益)、経常損失は4億85百万円(前年同期は9億45百万円の経常利益)、四半期純損失は3億54百万円(前年同期は3億91百万円の四半期純利益)となりました。

## 通期業績の見込みについて

当社は、平成24年9月27日に当第2四半期連結累計期間および通期業績予想の修正を発表しました。第2四半期連結業績予想の修正につきましては、受注予定の大型案件の期ずれにより、売上高が予想を大幅に下回りました。これに伴い、営業利益、経常利益、四半期純利益も減少し、損失計上となりました。通期業績予想の修正につきましては、下半期は上半期と比較して売上高は増加する見込みであります。

今後の対策として、当社グループにおきましては、予定の引合い案件の確実な受注確保を最優先として取組むことに加え、生産計画の精緻化や部品調達力の向上に

よる変動費比率の低減、経費の抑制などを積極的に展開してまいります。当面の間、企業の新規設備投資に対する慎重な姿勢が続き、当社グループへの影響も懸念されますが、これらの施策を着実に実行することにより、利益の確保に努めていく所存でございます。

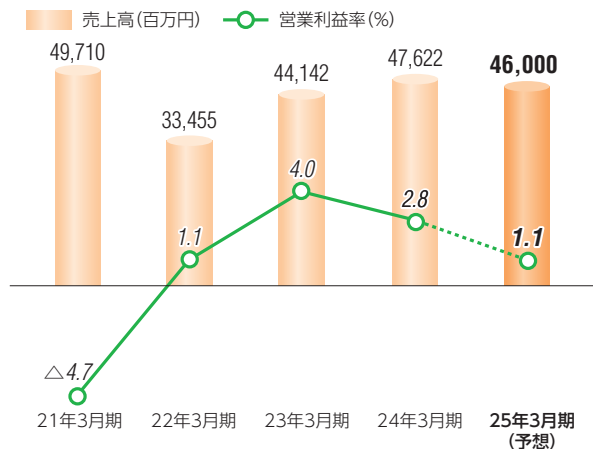
今後とも、損益分岐点の引き下げ努力を継続的に実施するとともに、事業拡大が期待できる市場や分野で価値をプラスした活動により、持続的な成長軌道を創ってまいります。

株主・投資家の皆様におかれましては、一層のご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

### ■ 平成25年3月期 第2四半期累計実績と通期業績予想(連結)

	第2四半期 累計実績	通期業績予想
売上高	164億円	<b>460億円</b>
営業利益	△ 4.4億円	<b>5億円</b>
経常利益	△ 4.8億円	<b>4億円</b>
四半期(当期)純利益	△ 3.5億円	<b>3億円</b>
1株あたり四半期(当期)純利益	△33.77円	<b>28.55円</b>
1株あたり配当金	0.00円	<b>15.00円</b>

### ■ 連結売上高・営業利益率推移



### 代表取締役会長 平田 耕也 永眠

当社の代表取締役会長 平田耕也は、2012年8月7日に満83歳で永眠いたしました。生前のご厚誼に深く感謝申し上げますとともに、謹んでお知らせいたします。

平田耕也会長は、1946年に初代会長 恒一と平田車輛工業を創業、熊本で手押し車やリヤカーなど一般産業車両の生産販売をスタートさせました。1951年に平田車輛工業株式会社を設立。コンベヤこそが運搬車の上をいく運搬手段だと確信し、ベルトコンベヤ、スラットコンベヤの製造販売を開始、成長の原動力となりました。1971年には作業者が生産ラインの処理を調整できるフリーフローコンベヤを開発、初めて海外に家電生産ラインを納品し、ライフテーマである「人間尊重の実現」への一步を踏み出しました。そして、家電業界などに向けた各種組立ラインなどにより事業が拡大する中、1974年に平田機工株式会社に商号を変更しました。工場で働く女性の腕代わりのロボットをつくりたいとの思いからロボット開発に着手、1981年4軸のスカラ型ロボット『ARM-BASE』を世界に先駆けて販売しました。またこの頃より、海外大手メーカーからの受注が増え、北米やヨーロッパ、東南アジア、中国の各エリアに海外現地法人を設置。2001年には北米自動車メーカーからエンジン組立ラインの大口受注に成功し、平田機工を国際的な企業に育て上げました。

常に仕事一筋で、ものづくりに徹し、妥協しない。自ら世界中を駆け巡り、技術開発現場にも足を運びました。また、さらによくやりたいという明日への希望を持ち、会社を世界に展開してまいりました。最後まで、第一線で精一杯好きな仕事をし、お世話になった方々への感謝の気持ちで満たされた人生でありました。



平田 耕也(ひらた やすなり)

1928年12月6日、韓国の木浦(もつぽ)生まれ。終戦後、熊本に引き揚げ、1946年に初代会長 恒一(つねいち)と起業し、1951年に平田車輛工業株式会社を設立、常務取締役就任。1965年に専務取締役就任。1974年には平田機工株式会社に商号変更。1977年に代表取締役社長に、2005年に代表取締役会長に就任。2006年には株式上場(現、大阪証券取引所JASDAQ市場)を果たす。

また、熊本県教育委員、熊本経済同友会代表幹事、熊本県工業連合会会長、熊本テクノポリス財団(現、財団法人くまもとテクノ産業財団)副理事長など、郷土への貢献にも尽力する。

### 平田 耕也会長「お別れの会」

2012年9月7日、故人を偲ぶ「お別れの会」がホテル日航熊本(熊本市中央区)にてしめやかに執り行われました。会には、各界から約1,500名の方々がご参会され、平田耕也会長と最後の別れを惜しみました。



## 太陽光発電事業に参入

発電容量1,000kWのメガソーラーを設置

当社は、熊本工場および熊本東工場の工場棟の屋根の一部を、当社の子会社であり太陽光発電システムの販売・施工事業を展開するタイヘイテクノス株式会社に貸与し、そこに5,200枚の太陽光発電パネルを設置いたしました。「全量買取制度」※1を利用し、発電した電力はすべて九州電力に売電します。10月下旬に発電を開始いたしました。当社グループは、電力不足対策への寄与、敷地内の遊休空間の有効利用、および環境負荷低減などの面から社会に貢献してまいります。

### ●発電容量

熊本工場400kWと熊本東工場600kWの合計1,000kWで、いわゆるメガソーラーと呼ばれる規模です。天候に左右されるため、正確な予測は困難ですが、年間発電量約100万kWhを予測しております。

### ●収益と費用

「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」※2では、電力会社に1kWhあたり42円(税込)の買取価格を義務付けているため、当社に設置したシステムの年間発電量が100万kWhの場合、年間4,000万円程度の収益が見込まれます。投資額は約3億円であり、回収期間は7年を見込んでおります。



熊本工場



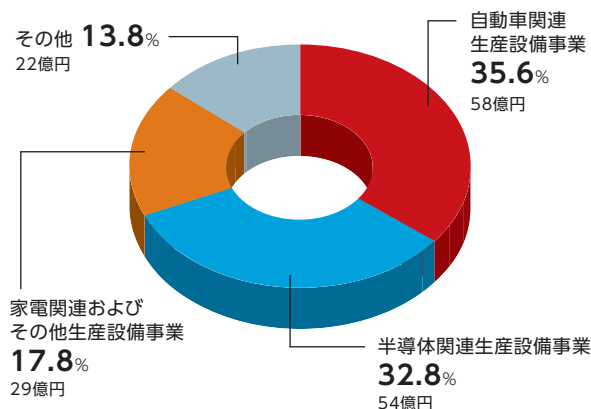
熊本東工場

※1 全量買取制度：2012年7月より、再生可能エネルギーで発電された電力すべてを電力会社が買い取る制度。事業者自身が消費する電力は通常どおり電力会社から供給されるものを使う。  
※2 再生可能エネルギーの固定価格買取制度：太陽光発電について、出力10kW以上の発電施設では20年間、1kWhあたり42円(税込)の買取価格で買い取れることを電力会社に義務付けている制度。

## 事業部門別概況

### 当期売上高内訳

(平成24年4月1日～平成24年9月30日)



売上高

**164**億円

受注高

**162**億円

受注残高

**192**億円

事業分野別の業績につきましては、当社は前期まで、事業分野を自動車関連生産設備事業、FPD関連生産設備事業、半導体関連生産設備事業、物流機器および家電関連生産設備事業（L&M事業）の4つに区分しておりましたが、液晶テレビ分野の急速な市場縮小などにより、今期からFPD関連生産設備事業を半導体関連生産設備事業に組み入れ、また物流機器および家電関連生産設備事業を、家電関連およびその他生産設備事業と変更して3つの事業分野に再編しました。

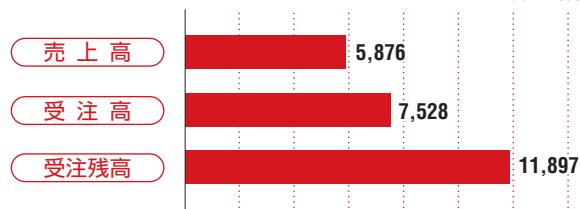
## 自動車関連生産設備事業

エンジン、トランスミッションなどの自動車の駆動系主要部品をはじめ、制御用電子機器、車載用電子部品などの組立設備の製造・販売



### ■平成24年9月期 売上高、受注高および受注残高

単位:百万円



### 第62期 第2四半期実績

自動車関連生産設備事業におきましては、北米の自動車メーカー向けの案件を中心とした引合いは堅調であります。予定しておりました大型案件の受注が遅れている影響もあり、売上高は58億76百万円となりました。受注残高は高い水準にあり、また今後も北米メーカーからの引合いは継続するものと見込んでおります。



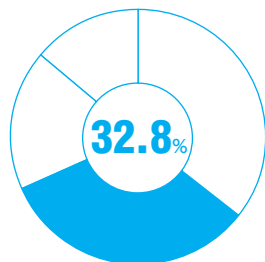
エンジン組立ライン



トランスミッション関連設備

## 半導体関連生産設備事業

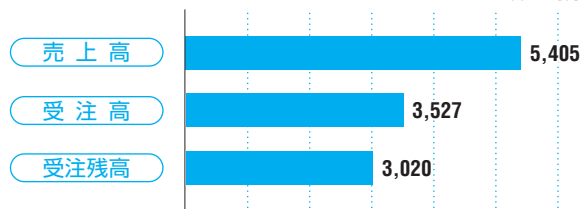
ロードポート、ウェーハ搬送ロボットなどの半導体関連生産設備、レジスト塗布装置などのFPD関連生産設備の製造・販売



売上高 **54**億円

■平成24年9月期 売上高、受注高および受注残高

単位:百万円



### 第62期 第2四半期実績

半導体関連生産設備事業におきましては、受注、売上とも厳しい状況の中、大型製造受託案件の受注の遅れなどが影響しました結果、売上高は54億5百万円となりました。

今期より当事業分野に組み入れたFPD関連生産設備事業は、今後も厳しい事業環境が続くものと見込んでいますが、新型ロボットの投入など積極的な営業展開を継続してまいります。



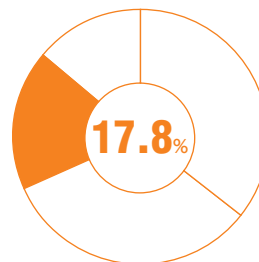
450mm EFEM/ソーター



450mm ウェーハ搬送ロボット

## 家電関連およびその他生産設備事業

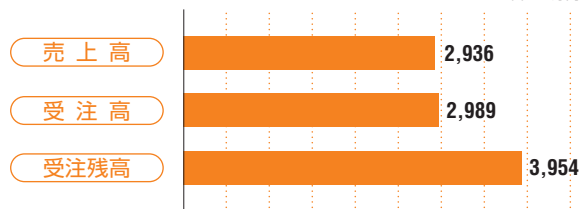
家電関連分野では、薄型テレビ、冷蔵庫などの自動組立設備、その他生産設備分野では、タイヤ生産設備、自動倉庫システムなどを製造・販売



売上高 **29**億円

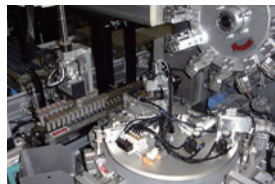
■平成24年9月期 売上高、受注高および受注残高

単位:百万円

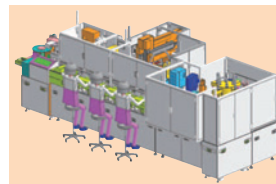


### 第62期 第2四半期実績

家電関連およびその他生産設備事業におきましては、白物家電および電子部品を中心とした案件を予定どおり売上げました結果、売上高は29億36百万円となりました。



コンデンサー組立装置



ハードディスク自動組立ライン

# 連結財務諸表(要約)

■ 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	前第2四半期 連結会計期末 (23.9.30)	当第2四半期 連結会計期末 (24.9.30)	前連結会計 年度末に係る要約 連結貸借対照表 (24.3.31)
<b>【資産の部】</b>			
<b>流動資産</b>	39,779	32,356	35,637
現金及び預金……………1	5,668	9,377	7,549
受取手形及び売掛金	25,590	14,355	20,540
商品及び製品	353	286	239
仕掛品……………2	5,124	4,862	4,256
原材料及び貯蔵品	401	321	342
繰延税金資産	1,817	2,196	1,885
その他	868	976	847
貸倒引当金	△ 44	△ 19	△ 23
<b>固定資産</b>	19,258	19,262	18,891
有形固定資産	15,735	15,742	15,525
建物及び構築物(純額)	4,623	4,424	4,319
土地	9,797	9,707	9,719
その他	1,314	1,609	1,486
無形固定資産	344	343	309
投資その他の資産	3,178	3,177	3,056
<b>資産合計</b>	<b>59,038</b>	<b>51,619</b>	<b>54,528</b>

(単位:百万円)

科目	前第2四半期 連結会計期末 (23.9.30)	当第2四半期 連結会計期末 (24.9.30)	前連結会計 年度末に係る要約 連結貸借対照表 (24.3.31)
<b>【負債の部】</b>			
<b>流動負債</b>	27,617	22,460	21,930
支払手形及び買掛金…3	11,985	6,542	8,379
短期借入金	6,897	6,104	5,742
一年以内返済予定の長期借入金	2,806	4,880	2,845
一年以内償還予定の社債	1,250	375	750
賞与引当金	129	119	117
その他	4,549	4,438	4,096
<b>固定負債</b>	13,993	11,963	14,929
社債……………4	375	—	—
長期借入金	8,674	7,246	10,087
退職給付引当金	1,380	1,145	1,254
その他	3,563	3,571	3,586
<b>負債合計</b>	<b>41,611</b>	<b>34,423</b>	<b>36,860</b>
<b>【純資産の部】</b>			
<b>株主資本</b>	13,812	13,416	13,931
資本金	2,633	2,633	2,633
資本剰余金	2,322	2,322	2,322
利益剰余金	9,099	8,703	9,218
自己株式	△ 243	△ 243	△ 243
その他の包括利益累計額	3,408	3,617	3,567
少数株主持分	205	162	169
<b>純資産合計</b>	<b>17,427</b>	<b>17,196</b>	<b>17,668</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>59,038</b>	<b>51,619</b>	<b>54,528</b>

## ポイント

### 1 現金及び預金

現金及び預金は、売掛金の回収が進んだ一方、生産高が低調であり、運転資金需要が減少した結果、前期末比18億28百万円の増加となりました。

### 2 仕掛品

仕掛品は、海外案件の仕掛増加などにより、前期末比6億6百万円の増加となりました。

### 3 支払手形及び買掛金

支払手形及び買掛金は、半導体関連部品の仕入減少や買掛金の減少に伴い、前期末比18億36百万円の減少となりました。

### 4 有利子負債

有利子負債は、長期借入金が予定どおりの返済が進んで減少し、前期末比8億17百万円の減少となりました。



## ■ 四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	前第2四半期 連結累計期間 自 23.4.1 至 23.9.30	当第2四半期 連結累計期間 自 24.4.1 至 24.9.30	前 期 自 23.4.1 至 24.3.31
売上高	26,043	16,496	47,622
売上原価	22,350	14,254	40,743
売上総利益	3,693	2,241	6,878
販売費及び一般管理費	2,700	2,686	5,540
営業利益	993	△ 444	1,337
営業外収益	123	75	396
営業外費用	171	116	270
経常利益	945	△ 485	1,464
特別利益	1	0	3
特別損失	41	49	207
税金等調整前 四半期(当期)純利益	906	△ 534	1,260
法人税等	575	△ 131	862
少数株主利益	△ 61	△ 48	△ 91
四半期(当期)純利益	391	△ 354	489

## ■ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	前第2四半期 連結累計期間 自 23.4.1 至 23.9.30	当第2四半期 連結累計期間 自 24.4.1 至 24.9.30	前 期 自 23.4.1 至 24.3.31
営業活動による キャッシュ・フロー	△ 1,897	3,381	943
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 425	△ 501	△ 740
財務活動による キャッシュ・フロー	67	△ 1,064	△ 540
現金及び現金同等物に 係る換算差額	0	13	△ 38
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	△ 2,255	1,828	△ 375
現金及び現金同等物の 期首残高	7,924	7,549	7,924
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	5,668	9,377	7,549

## ポイント

### 5 売上高

家電関連分野では白物家電および電子部品を中心とした案件を予定どおり売上げたものの、自動車分野、半導体分野において、売上予定案件の期ずれにより、売上高は、前年同期比36.7%減の164億96百万円となりました。

### 6 営業利益

売上高の減少に伴う売上原価率の増加により、営業損失は4億44百万円(前年同期は9億93百万円の営業利益)となりました。

### 7 経常利益

経常損失は、売上高の減少や営業損失の計上などにより、4億85百万円(前年同期は9億45百万円の経常利益)となりました。

### 8 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純損失5億34百万円に対し、売上債権の減少62億56百万円、仕入債務の減少18億86百万円などにより、33億81百万円の収入となりました。

### 9 投資活動によるキャッシュ・フロー

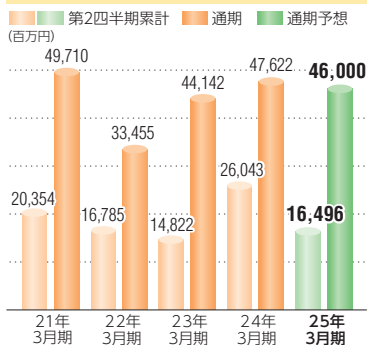
投資活動によるキャッシュ・フローは、投資有価証券の取得による支出1億10百万円、有形固定資産の取得による支出4億45百万円などにより、5億1百万円の支出となりました。

### 10 財務活動によるキャッシュ・フロー

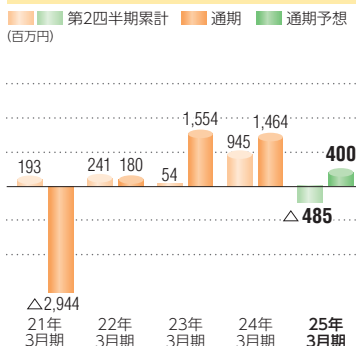
財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入金の増加3億59百万円、長期借入れによる収入10億円、長期借入金の返済による支出18億6百万円、社債の償還による支出3億75百万円などにより、10億64百万円の支出となりました。

# 財務ハイライト

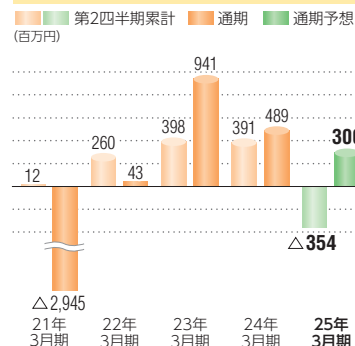
## 売上高



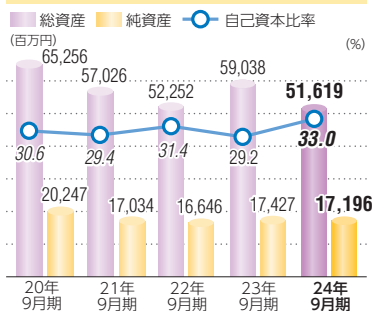
## 経常利益(損失)



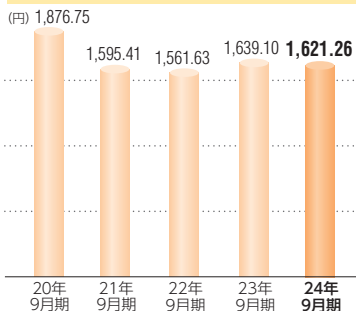
## 四半期(当期)純利益(損失)



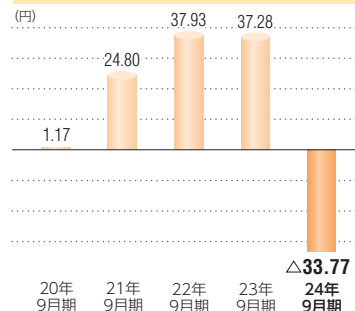
## 総資産／純資産



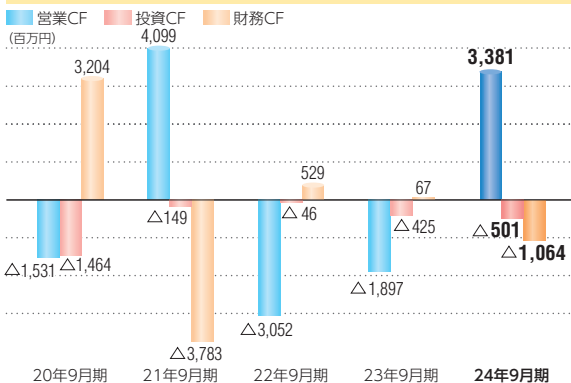
## 1株あたり純資産額



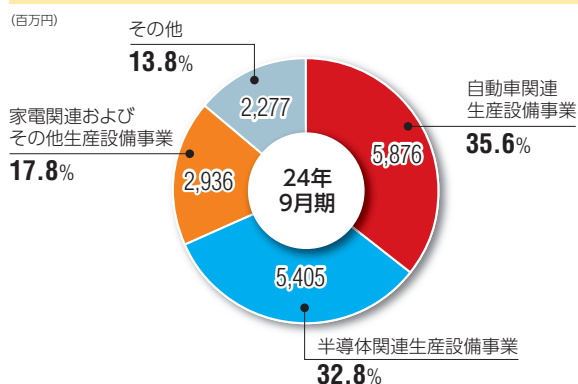
## 1株あたり四半期純利益(損失)



## キャッシュ・フロー



## 事業別売上高および比率



## 会社概要 (平成24年9月30日現在)

**会社名** 平田機工株式会社  
**会社設立** 1951年12月29日  
**資本金** 2,633百万円  
**従業員数** 1,896名 (連結 平成24年9月30日現在)  
**業務内容** 各種生産システム、産業用ロボットおよび  
 物流関連機器等の製造ならびに販売  
**本社所在地** 東京都品川区戸越3丁目9番20号

<b>役員</b>	代表取締役社長	平田 雄一郎	執行役員	堤 春生
	代表取締役副社長執行役員	橘 勝義	執行役員	藤原 五男
	取締役執行役員	坂本 広徳	執行役員	藤本 勝
	取締役執行役員	松永 盛文	執行役員	平賀 靖英
	取締役執行役員	田中 敏治	執行役員	大田 謙次
	取締役	平田 宏之	執行役員	市原 雄一
	常勤監査役	小川 克真	執行役員	上田 文雄
	監査役	村田 邦夫	執行役員	本郷 仁基
	監査役	山田 昭	執行役員	黒田 健治
	監査役	鳥巢 宣明		

## 株式の状況 (平成24年9月30日現在)

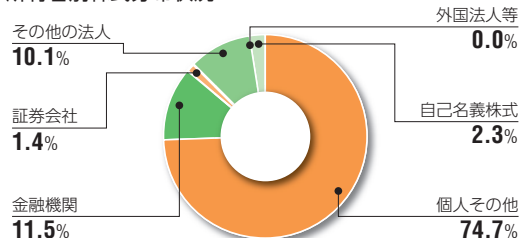
- 発行可能株式総数 37,000,000 株
- 発行済株式総数 10,756,090 株
- 株主数 2,545 名

### 大株主の状況

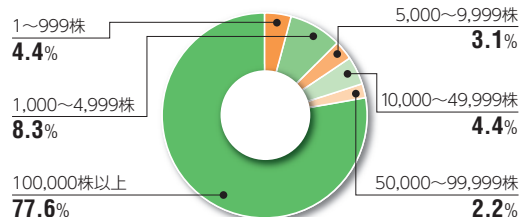
株主名	持株数(株)	持株比率(%)
平田 耕也	994,462	9.25
平田機工社員持株会	888,010	8.26
平田 紀生	575,162	5.35
SMC株式会社	500,000	4.65
平田 宏之	464,972	4.32
平田 満	457,629	4.25
株式会社肥後銀行	456,000	4.24
平田 雄一郎	402,300	3.74
平田 滋夫	363,044	3.38
有限会社コンパス	224,000	2.08

上記のほか、当社が保有している自己株式が249,412株あります。

### 所有者別株式分布状況



### 所有株数別株式分布状況



## 株主メモおよびその他のIR情報

### 株主メモ(株主のご案内)

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
株主確定基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日 ※期末配当のみとさせていただきます。
定時株主総会	毎年6月開催
単元株式数	100株
証券コード	6258
上場金融商品取引所	大阪証券取引所 JASDAQ市場
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 (郵便物送付先) 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 (電話照会先) 0120-176-417(フリーダイヤル)
公告方法	当社のホームページに掲載します。ただし、事故 その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経 済新聞に掲載して公告します。

#### 【株主に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、上記の電話照会先にご連絡ください。

### その他のIR情報

当社ホームページの個人投資家向けのページには、当社の事業内容、業績の推移、あゆみなどさまざまな情報を掲載しています。ぜひご覧ください。

#### ■ 平田機工株式会社ホームページ



<http://www.hirata.co.jp/>

#### ■ IR情報



<http://www.hirata.co.jp/ir/>

- IR情報に関するお問い合わせ先  
平田機工株式会社 経営企画部 IR・広報室

TEL 096-272-5558

FAX 096-272-3618

E-mail [hirata\\_ir@hirata.co.jp](mailto:hirata_ir@hirata.co.jp)

## 平田機工株式会社

### 本社

〒142-0041 東京都品川区戸越3丁目9-20  
TEL.03-3786-1226 FAX.03-3786-1264

### 熊本本部

〒861-0198 熊本県熊本市北区植木町一木111  
TEL.096-272-0555 FAX.096-272-7901